

主日礼拝 2021年2月7日（日）

題 『驚きの出来事』

テキスト：マルコによる福音書1章：21～28節

今日の聖書の個所を読んで、昔観た「グリーンマイル」という映画を思い出しました。

1999年に製作されヒットした映画です。主人公はジョン・コーフィという黒人の死刑囚ですが、どうしてこのような人が死刑になるのか、と思えるほどの善良な人物なのです。

彼は刑務所で様々な癒しの業を行なって人を助けていくのですが、彼は、癒しを行う度に、疲れて行きます。心も身体もつかい果たし、そして、ついに死刑への道、「グリーンマイル」と呼ばれていた緑色の敷物の道を歩いて行くのです。この映画は、「シネマで読む新約聖書」という書物では、キリストの物語だと言われています。なるほど、主人公のジョン・コーフィという名前の、頭文字が、ジーザス・クライストつまり、イエス・キリストとなる暗号となっています。この映画を見たとき、私も主人公ジョン・コーフィとイエス・キリストの姿と重なりました。

さて、今日の聖書の個所は、イエスさまが弟子を選んでカファルナウムの町に入り、最初にされたことが記されています。当時の礼拝に出席することでした。これは約2000年前のユダヤ教の礼拝でした。

今も主イエスは目には見えませんが、清き霊において礼拝の中にいてくださり、求める者たちに生きる力を与えてくださっているのです。

そこで、「汚れた霊に取りつかれた男」をいやされたのです。

さて、聖書では

「21:一行はカファルナウムに着いた。イエスは、安息日に会堂に入って

教え始められた。」とあります。カファルナウムはガリラヤ湖の北部にある町で、イエスさまの宣教の拠点となった町です。

イエスさまは、ユダヤ教の安息日、現在の土曜日に行われているユダヤ教の会堂、シナゴグに行かれました。このシナゴグ・会堂は、礼拝の場であると共に、子どもたちや大人の教育の場でもありました。また、地域の人々が集まって相談する寄合場所でもあったようです。現在の町内会館に似ていると思います。

このシナゴグの礼拝では神への祈りがささげられ、巻物になっていた聖書、旧約聖書のことですが、おもむろに読まれました。大人も子ども暗記していた

ようです。今でもイスラエルの子どもたちは旧約聖書のことばを暗記するようです。特にモーセの名のついた旧約聖書の創世記から始まって5つの書物です。

また詩編や預言者イザヤの書も読まれてました。

昔、テレビでユダヤ教の礼拝の場面を観て、祭司が巻物の聖書をあかんぼをいつくしむかのように大切に抱えている姿に感銘を受けました。彼らにとっては聖書のことばはまさに神の言葉として形においても大切にされ今日まで伝えられて来たのです。

祭司がいない場合は、その場にいる民衆の誰かが、聖書を読み信仰的な話、今日的に言えば証をしていたようです。

そのような場面でイエスさまは、人々に中に立たれたのです。

イエスさまは、ことばと行いをもって、神さまのいのち、愛と正義、つまり神の国の実現を伝えられたのです。

22:人々はその教えに非常に驚いた。律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。

イエスさまのことばを聞いた人々は衝撃を受け、びっくりし、驚きました。

「仰天した」と訳す聖書もあります。語る言葉に力があつたのです。まさにことばが生きていたのです。

ですからイエスのことばは、人々の心を慰め励まし、反対に怒りをかうこともあつたのです。

活きた新鮮な魚が跳ねるように、イエスさまの言葉は、生きていて跳ねていたのです。

さて、ここからイエスさまの行われた最初の奇跡物語です。イエスさまは奇跡を行われたのです。ある人たちは、聖書に奇跡の話がなければ分かりやすいのと言います。しかし、聖書からイエスの行われた奇跡物語を省いたら聖書ではなくなるのです。イエスさまの奇跡は、科学の学習ではないのです。科学的に説明もできないですし、その必要もないのです。ただ十字架に近づくにつれて奇跡は減って行きます。それは人々の目が奇跡にばかり向かうことを考えられたのかもしれませんが。イエスさまの奇跡は、ただ、ひたすら神さまの愛の力と救いを伝えるためであつたのです。

23:そのとき、この会堂に汚れた霊に取りつかれた男がいて叫んだ。

汚れた霊に取りつかれた男、当時そう思われていたのです。

何か肉体的な、精神的な病を負っていた人たちは、そう思われることが多かったようです。

この人に癒しの出来事が起こったのです。主イエスは言葉と行いで解放の言葉と愛の行動で苦難に生きる人々を癒してくださる、生きていけるようにしてくださる、その力を持った方なのです。

癒しはどのように起こったのか。男は、叫びます。

24:「ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。

正体は分かっている。神の聖者だ。」

「かまわないでくれ。」「我々を滅ぼしに来たのか。」と叫びます。

すさまじい光景だったと思います。この男の心を支配していた力、汚れた霊とか、悪霊とか、サタンとか言われていた力は、イエスの本質を知っていたのです。イエスが救い主であることをです。

ですから、かかわってほしくなく、自分が滅ぼされるとの危機感を感じていたのです。ちなみに編集者マルコはイエスの弟子たちには厳しく、弟子たちは最後までイエスの本質、メシアキリスト、救い主であることを知らなかったとみなしているのです。でもイエスさまは弟子たちを友として最後まで、それも十字架の死に至るまで思いつつけ、愛されたのです。

神さまの全能の力は、十字架の愛に極まるのだと思います。

弱く見える真実の愛が、本当は一番人を生かし、強いということです。

母の愛も完全ではないと思いますが、真実の愛に一番近いと言われます。

イエスは、この人を支配している力、サタンに面と向かって、

「黙れ。この人から出て行け」とお叱りになると、26:汚れた霊はその人にけいれんを起こさせ、大声をあげて出て行った。

結果はイエスの勝利です。

イエスの評判は、たちまちガリラヤ地方の隅々にまで広まったのです。

イエスは「一人の人」のために、自身の持つエネルギーを消費されたのです。それは十字架に至る苦難の道であり、そこから永遠の命に至る道でもありました。イエスさまの愛は、今を生きるわたしたちのために神さまが与えてくださった真の愛なのです。イエスについて行く者たちは、自分に与えられたイエスの愛のエネルギーを使って弱っている人を生かすことができるのです。これは豊かな実を結ぶ働きであることを覚えたいのです。

◆汚れた霊に取りつかれた男をいやす

21:一行はカファルナウムに着いた。イエスは、安息日に会堂に入って教え始められた。

22:人々はその教えに非常に驚いた。律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。

23:そのとき、この会堂に汚れた霊に取りつかれた男がいて叫んだ。

24:「ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。」

25:イエスが、「黙れ。この人から出て行け」とお叱りになると、

26:汚れた霊はその人にけいれんを起こさせ、大声をあげて出て行った。

27:人々は皆驚いて、論じ合った。「これはいったいどういうことなのだ。権威ある新しい教えだ。この人が汚れた霊に命じると、その言うことを聴く。」

28:イエスの評判は、たちまちガリラヤ地方の隅々にまで広まった。